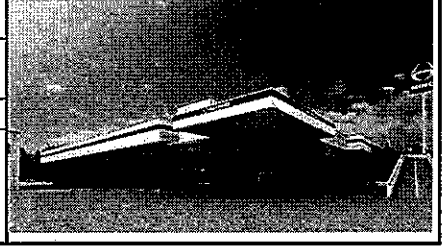


# CASBEE® 新築[簡易版]

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.6)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)京都日野自動車本社新築工	階数	地上2F
建設地	京都府久世郡久御山町佐山双栗37	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100人
気候区分		年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年7月 予定	評価の実施日	2012年8月6日
敷地面積	12,380㎡	作成者	岡西 慶武
建築面積	4,773㎡	確認日	2012年8月6日
延床面積	5,941㎡	確認者	桶村 秀人



**2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)**

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	67%
③ 上記+②以外のオンサイト手法	67%
④ 上記+オフサイト手法	67%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

**2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 3.0

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 3.6

**Q3 室外環境 (敷地内)** Q3のスコア = 2.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.9

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 4.3

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 3.5

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 3.7

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
次世代のエコ自動車修理工場を目指し、照明計画、空調計画、断熱計画を再検討を行った。事務所部分だけでなく、整備工場、部品庫部分にもLED照明を採用した。工場にはトップライトの設置と透透性のあるシャッター面材を採用し、昼間の照明利用の削減を目指した自然採光計画とした。工場空調には井水地熱を利用したシステムを採用し、再生可能1次エネルギーを約1,700,000MJ/年間利用する計画とした。		給湯施設には電気と灯油を利用したハイブリットエコキュートシステムを採用した。
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
断熱材の強化、low-eガラス採用等により外皮性能を上げ、室内の温熱環境に配慮している。ライトコート、トップライトなどを設けることにより光・視環境に配慮し、また、化学汚染物質、換気量など空気環境にも配慮している。	天井高を高くするなど心理性、快適性に配慮し、階高を高くし、空間にゆとりをもたせるなど配慮をしている。構造部材を痛めることなく配線の更新・修繕ができる。内外装とも、防汚性に配慮した素材を採用している。	視線を遮る様な樹木を配置しないなど、地域性への配慮をしている。京都府産杉材を内装に使用するなど、地域性にも配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
断熱材の強化、low-eガラスの採用等により建物の熱負荷抑制に配慮している。ライトコートを設け、自然採光を計画している。太陽光、地下水の空調機利用など、自然エネルギーを利用している。	自動水栓の採用など、水資源保護に配慮している。O.Aフロア等を採用することにより、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。また、リサイクル材についても積極的に使用している。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を、一般的な建物と比べ67%と低く抑えている。十分な量の自転車置場、駐車場を設け、設置位置など利便性に配慮し、また周辺道路に洗滞がおこらないよう、出入口を交差点から離すなどの配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい